

市長定例記者会見（令和4年12月21日）録

11時30分～12時07分

まず、題材に入ります前に、新型コロナウイルス感染症の感染状況並びに、新型コロナウイルスワクチンの接種状況につきまして、御報告申し上げます。

まず、県内の新型コロナウイルスの新規感染者数の状況でございますが、10月中旬以降、9週にわたり、前の週の合計を上回る状況が続いており、11月21日（月）には、約2か月ぶりに1,000人を超える、1,035人を確認し、高止まりが続く中、今月19日には、8月下旬以来の1,900人を超える、1,932人を数えるなど、1日1,000人を超える日が多くなっている状況でございます。

また、県内の病床使用率につきましても、16日に、50.5%と、約3か月ぶりに50パーセントを超えており、警戒を強める必要があるものと存じております。

さらに、先般、県においては、第8波が懸念される、この冬は、新規感染者がピーク時に、1日3,326人に上り、インフルエンザと同時流行した場合には、1日当たり最大で6,000人に上るとの試算を示しております。

このように、これまでにない規模で感染が拡大し、それにより医療がひっ迫する可能性もございます。私自身、先週17日（土）に、新型コロナウイルスワクチンとインフルエンザとの同時接種を行ったところでございますが、市民の皆様におきましても、接種を希望される方は、同時流行に備えて、早めの接種を御検討ください。

また、発熱などの体調不良時に備えて、抗原定性検査キットや解熱薬を早めに購入しておいていただければと存じます。

一方、本市のワクチン接種の状況でございますが、今月15日（木）時点で、3回目接種を終えられた方は、約26万9千人で、接種率は63.5%、また、4回目接種を終えられた方は、約15万5千人で、接種率は36.6%、5回目接種を終えられた方は、約2万4千人で、接種率は5.5%となっております。

この他、オミクロン株対応ワクチンの接種を終えられた方が、約7万3千人で、接種率は、約17.3%となっております。

オミクロン株対応ワクチンの接種につきましては、先日、御報告させていただいておりますように、個別接種については、12月16日（金）現在、1月中、市内138の協力医療機関におきまして、約1.8万人分の接種の予約が可能となる予定でございます。

また、集団接種につきましては、来年1月7日（土）・8日（日）に市役所13階で、28日（土）・29日（日）には、みんなの病院で予定しており、延べ4日間で、820人分の接種を実施することといたします。

今後、年末年始にかけて、忘年会や新年会など友人らとの会食を始め、帰省や旅行、初詣など、人と会う機会が多くなっていくものと存じます。市民の皆様には、感染拡大を抑えるためにも、改めて、基本的な感染対策の徹底をお願いしたいと存じます。

#### 高松市二十歳のつどいについて

それでは、題材に入らせていただきます。本日は、1件でございますが、これまでの成人式に当たる「2023年高松市二十歳（はたち）のつどい」を、来年1月8日（日）、レクザムホールにおきまして、1部制で開催するものでございます。

成人年齢が20歳から18歳に引き下げられておりますが、18歳の多くが高校3年生であり、進路の選択に関わる時期に当たることから、本市では、これまでどおり20歳の方を対象に式典を開催することとしております。

今回の対象者は、12月13日（火）現在で、本市在住の方と、帰省して出席希望の方を合わせまして、4,475人となっております。

ここ最近の傾向から、参加者は、約2,600人と見込んでおりますが、参加されない方も式典の様子を御覧いただけるよう、オンラインで配信いたします。

今回の「二十歳のつどい」のテーマは、「歩（あゆみ）～未来への道は私がつくる～」でございますが、「これまでの経験を生かし、自分が決めた道を信じて、自分らしい人生を歩いてほしい。」という思いが込められております。

「二十歳のつどい」のテーマや式典内容は、公募による二十歳のつどい運営スタッフの皆さんが協議して決定したものでございまして、今回、オープニングは、鶴尾小学校6年生の皆さんによる鶴尾太鼓と、高松市役所吹奏楽団による演奏を予定しております。

内容といたしまして、20歳の皆さんからのメッセージ、高校時代の恩師からのお祝いメッセージが放映されます。また今回新しい試みとして、運営スタッフの皆さんが、本市の魅力をPRする動画を放映する予定でございます。

また、式典当日は、20歳の方を対象に玉藻公園を無料開放し、記念撮影スポットを設けております。

なお、周辺道路の混雑緩和のために城内中学校跡地に参加者用の降車場を設置し、御利用いただくこととしております。

この冬は、新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの同時流行の可能性が極めて高いと言われておりますので、特に参加される皆さんには、マスクの着用など、十分な感染防止対策をお願いいたします。

今年最後の記者会見でございますので、今年一年を振り返っての、私の所感をお話しさせていただきたいと存じます。

今年は、サッカーのワールドカップが開催され、先日アルゼンチンが優勝を決めておわったところですが、日本が、惜しくもベスト8は逃したものの、強豪国であるドイツとスペインを相手に歴史的な勝利を収めました。世界をあっという間に驚かせた日本代表選手の健闘に、私自身も見ていて胸を熱くしたところでございます。

本市ですが、今年の夏は、24年ぶりに、「全国高等学校総合体育大会」、いわゆるインターハイが四国4県を中心に開催されました。中でも、高松中央高等学校の喜田 未来乃（みらの）選手が、新体操競技の女子個人で完全優勝を達成されました。連日、各競技で、地元の選手たちが、大いに活躍してくれました。

また、夏の甲子園で、高松商業高校が、52年ぶりにベスト8入りを果たし、中でも浅野翔吾選手は、甲子園で3本のホームランを放つなどの活躍を見せ、巨人にドラフト1位で入団が決まるなど、今年も、スポーツの面を通して多くの感動をいただいた年でした。

さらに、5回目となる「瀬戸内国際芸術祭2022」が開催され、今回は、コロナ禍での開催ということで非常に難しい運営でしたが、結果国内客を中心に72万人を超える方々に来場いただきました。

また、史跡高松城跡に桜御門が復元されました。戦災で焼けてから、77年ぶりの復元ということで当時の姿が再現されまして、非常に人気になっていると聞いています。また、屋島の新たな交流拠点施設として、山上に「やしまーる」もオープンし、多くの観光客らで賑わっています。

さらに、3年ぶりに「さぬき高松まつり」を開催したほか、11月には、コロナ禍で運休していた「高松ーソウル線」が、運航を再開しました。本市の地域経済の活性化と、賑わいの創出につながる、明るい話題であったと思っています。

その一方で、国際情勢においては、2月に、ロシアがウクライナへ侵攻するという信じられない事態が起こり、多くの一般人が犠牲になっている状況を見ますと、一刻も早い戦争終結と日常生活の回復を願うばかりでございます。

また、今年も、新たな変異株の出現とともに、流行の波を繰り返す、新型コロナウイルス感染症への対応に追われた一年でもありました。

特に、夏の「第7波」では、感染力が強いオミクロン株の派生型BA・5への置き換えりによる感染拡大の影響で、本市におきましても、8月18日に1,374人という、過去最多の新規感染者数を記録しております。感染爆発ともいえる様相を呈し、保健所業務・医療提供体制のひっ迫や、急増した自宅療養者への対応など多くの課題に直面したところでございます。

このような中、本市におきましては、感染防止対策を講じつつ、社会経済活動の回復に向け取り組んでいるところでございます。

まず、感染防止対策では、随時、集中取組を行い、現在、「年内接種加速化プロジェクト」を実施するなど、ワクチン接種の促進に取り組んでいます。10月からオミクロン株BA・5に対応した新型コロナワクチン接種を開始したところでございます。

今現在、第8波が懸念されるこの冬は、新型コロナウイルスとインフルエンザとの同時流行が心配されておりますので、警戒を緩めることなく、感染拡大の防止に、しっかりと取り組んでまいりたいと存じます。

また、経済対策では、市内宿泊施設を利用した人に、もう1度泊まれるデジタ

ルクーポンを進呈する「Reビジット高松キャンペーン」や、市内企業等のデジタル化を支援する「中小企業等デジタルビジネス推進支援事業」などを実施しています。年明けには、「商都たかまつ！最大20%戻ってくる消費拡大キャンペーン」、キャッシュレスのキャンペーンですが、これを実施するなど、社会経済活動の活性化を図っているところです。

加えて、低所得の子育て世帯に対し、子育て世帯生活支援特別給付金を支給したほか、学校給食における食材費の物価高騰分の補助や、観光、農業、公共交通などの分野に対する支援などに取り組んでまいりました。さらに、市立小・中学校の3学期の給食費を無償化するなど、物価高騰で負担が増している子育て世帯等を支援することとしております。

このほかにも、各種施策に取り組んでまいりましたが、主なものを挙げますと、「共助の基盤づくり事業」として、介護や障がい、子育てなど、複雑化・多様化する課題を一体的に支援する、重層的支援体制を構築するため、地域サービスの担い手の確保、育成に関する活動を支援しました。

また、「ゼロカーボンシティ推進事業」として、ペットボトルリサイクルやフードドライブによる取組を推進し、脱炭素社会の形成に資するライフスタイルの普及を促進しました。

「高松丸亀町商店街再開発事業」では、1月に、大工町街区の駐車場を中心とする施設が整備され、4月には、おもちゃ美術館もオープンするなど、市街地再開発を推進しました。

また、国の「デジタル田園都市国家構想推進交付金」のTYPE3の事業として、パーソナルデータ基盤を活用し、地域が主体となったデータ利活用事業として、市民を対象としたデジタル給付実証事業を行うとともに、「地理空間データ基盤」を活用して、災害対策に必要な情報を可視化する防災アプリ「たかまつマイセーフティマップ」のサービスを開始いたしました。

以上、取組の一端を申しあげましたが、このように、令和4年も、コロナ対策に注力しつつ、将来を見据えた事業についても着実に実行した年であったものと存じます。

迎える新年も、コロナ禍や、人口減少社会への対応と厳しい状況が続くものと存じますが、感染防止対策の徹底と、社会経済活動の回復の両立を念頭に、活力

を失わない持続可能なまちづくりを推進してまいりたいと存じます。

市政記者の皆様におかれましては、引き続き、本市市政に御理解と御協力をいただければと存じます。

皆様、良いお年をお迎えください。

#### 【記者質問】

##### 【記者】

静岡県裾野市の保育園で発覚した元保育士の児童への暴行問題で、同種の不適切行為が富山市の認定こども園や、新潟市の認可外保育施設で明らかになった。高松市では現時点でそういった行為の報告は上がっていないか。

##### 【市長】

本市では、毎年、保育施設等を対象に、施設監査を実施しています。保育状況を継続的に確認するなど、不適切な保育が起こらないように防止に努めているところでございます。これらの措置等を通じまして、現在のところ、保護者等からの個別の情報提供を含め、不適切な保育といったものは確認されておりません。

静岡県裾野市の保育施設の事案の発生の報道を受け、12月6日に、市内の教育・保育施設に対し「教育・保育施設における不適切な関わりの未然防止等について」の通知を出しています。子ども一人一人の人権に配慮した教育・保育の徹底を依頼したところでございます。

また、国の通知（12月7日付）を受け、今一度、保育のあり方を点検するよう依頼したところでございます。

いずれにいたしましても、今後とも、保護者や職員等から不適切な保育に関する相談を受けた場合には、速やかに事実関係を調査し、関係者を交えて適切に対処するという基本的な方針で臨みたいと思っております。これまで以上に、子どもの人権・人格の尊重に重点を置き、保育状況を継続的に確認するなど、このような、あってはならない事件が、本市で発生することのないよう、安心して、お子様を預けることができる保育環境の確保に努めてまいりたいと存じます。

【記者】

保育施設の件に関連して、過去10年間で高松市で不適切保育として認識されている件数が12件と伺っていますが、この数字について市長自身どのように受け止められますか。

【市長】

いろんな通報を基にしながら調査に入って指導するという形でしょうが、10年で12件が多いのか少ないのか判断は難しいですが、いずれにしても通報があった案件については調査をして、適切に必要な場合には是正指導されていることが必要だと思っています。

多いから悪い、少ないから良いというものではなく、個別の事案、小さな事案に対しても丁寧に対応していくことが必要であろうと思っています。

【記者】

12件という数字はまだまだ氷山の一角のように感じますが、不適切な保育が社会問題にもなっている現状も踏まえて、保育施設を所管する行政として、今どのような取組が求められていると思いますか。

【市長】

不適切な保育として認めたのが12件ということなので、不適切ではないか、ということで通報など色んな報告があったのは相当数に上るとしています。そういう中である一定基準で不適切だと認定し是正を求めていくということかと思っていますが、時代と共に不適切をどこで線引きするかというのは色々変わってくると思いますし、子ども一人一人の権利配慮した教育保育の徹底が非常に大事なので、不適切に至らないまでもそれに近い事案について事前に予防ができる形で施設側を指導していく体制で臨んでまいりたいと思っています。

【記者】

前回の会見でも保育士の実態を把握するための取組が必要とおっしゃっていましたが、今後行政が行う監査に必要な膨大な資料作りが保育士の大きな負担の1つになっているという声も聞きます。監査も大事だと思いますが、現場の負担軽減しつつ、実態を把握して対処していくための取組、どのようなものを想定され

ていますか。

【市長】

監査書類の負担軽減、事務負担の軽減も必要だと思っています。何かあれば、電話なり口頭で報告をしてもらう、ちょっとしたものでも担当課に報告してもらう。担当課ではいつでも相談受ける体制を整えておく、といったことが必要かなと思います。そうすれば、何かあった時にすぐ担当課に相談できる安心感が保育士、あるいは施設側にできるといったことが一番大事ではないかと思います。

【記者】

二十歳のつどいについて、今回3年ぶりに1部制での開催ということで、昨年までは2部に分けてできるだけ集まらないようにと呼びかけていました。最近、コロナの制限も緩和され、会食形式も変わってきていますが、感染拡大する中、参加される皆さんにはどのような呼びかけをされていきますか。

【市長】

コロナ禍を受け、一昨年が3部制、昨年が2部制で、今年は1部制で実施をしたいと思っています。今回はサンポートホールが改修中ということで、レクザムホールで開催されます。配席にも工夫し、密にならない形で、しかもオミクロン株の特徴として、重症化が少ないということで、声をあげたりする式典ではありませんので、ある程度1部制でやっても問題ないだろうという判断で、このような形に戻させていただきました。

参加者の方に特にお願いしたいのは、式典前後で大勢が集まって、昨年、一昨年でも見られましたが、式場に入らず、大勢がたむろして大騒ぎする光景も一部見られましたので、その辺についてはまだコロナ禍が収まっていないことを十分認識していただき、節度を持った感染防止対策に沿った行動をお願いしたいと思います。みんなで集まるにしても、玉藻公園を無料開放しておりますので、屋外の広々したところで二十歳のつどいを楽しんでいただければと思います。

【記者】

同窓会等はどのようにされるべく思いますか。

【市長】

同窓会についても、昨年あたりはできるだけやめてほしいということではありましたが、今年は特にその辺の制限について言及はしませんが、行動制限はないものの、大勢で集まって密になるというのは感染拡大が起こりやすいということが言われていますので、大人数で大騒ぎするのは慎んでいただきながら、マスク会食という形に近い、感染に繋がらないような会食の仕方で行っていただく、そういった注意をぜひともお願いしたいと思います。

できれば大人数での同窓会は避けていただきたいというのがお願いでございます。

【記者】

ワクチン接種について、今月15日時点では17.3%と伺いましたが、11月末時点では全国平均と比較して10%ほど下回っている状態でした。全国と比較して接種が進んでいない要因、どのようなものが考えられますか。

【市長】

本市の場合、医療機関でのVRS等の登録を保健所がやっておりますので、若干データが出るのが一週間遅れくらいになり、低めに出ているというところがあります。ただ、一週間分を差し引いたとしても全国平均よりも高松市の接種状況は率として低くなっているのは確かなので、いろんな問題が関係していると思いますが、できるだけ希望者の皆様には早めに接種していただけるよう、いろんな形を取りながら呼びかけると共に、接種のしやすい夜間の機会を設けるといったこともやっているのです、働いている人が接種しやすいような機会を設けるなどしながら、少しでも多くの方に接種いただけるように、働きかけてまいりたいと思います。

【記者】

前回の会見で先月下旬から年末年始に向けてワクチン問い合わせ、予約等が増えているとおっしゃっていましたが、国や県も年内に希望する人への接種を終えたいと目標を掲げていますが、これについて市の状況はどうですか。

【市長】

オミクロン株対応ワクチンの接種につきまして、非常に感染拡大状況を踏まえ、接種希望をされる方が多くなっています。従いまして、本市においては1月にオミクロン株対応ワクチン接種について1万8千人の個別接種枠を用意し、予約ができるだけ1月中に取れるようにしています。

それに向けて、これを発表して、希望する方1月早めに打ってくださいよ、と呼びかけて接種促進に努めてまいりたいと思います。

【記者】

年内に希望する方の接種を終えるというのは難しい状況ですか。

【市長】

ということですね。

これだけ入ってきておりますし、なかなか年末年始で忙しいところもありますので、希望者が増えてきているので、今の状況の中で年内で希望者全員に接種を終えるというのは難しいと。新たな希望者に対応するために、1月の接種予約枠の拡大、あるいは2月もやらなければならないと思いますが、状況を見ながら接種促進に努めていくことが今の状況です。

【記者】

発熱外来について。市内の感染が拡大したことを受け、市の休日発熱外来を再開されましたが、第8波の感染拡大期における発熱外来、保健所のひっ迫状況、現在どうなっているのか教えてください。

【市長】

発熱外来ですが、年末年始にかけてコロナ新規感染者数の急増が想定され、インフルエンザとの同時流行ということで非常に発熱外来がひっ迫することが懸念されています。

このような状況に対応するために、今月16日から年末年始を含む、毎週金曜日午後7時半～8時半までの1時間、高松市夜間急病診療所において、発熱やのどの痛みなど症状がある、高校生以上の方を対象に、コロナウイルス感染症と季節性インフルエンザの同時検査キットを使った検査や診察を行うことにしていま

す。

金曜日の夜に発熱した場合に、土日で行くところがないということも不安なので、コロナウイルスとインフルエンザの同時検査キットを使った検査や診察を行うことにしています。

今月18日からは高松市医師会と薬剤師会に御協力いただき、9月開設していた高松市休日コロナ発熱外来を再開しました。年内は25日（日）、年始は元旦と2日（月）の両日、午前9時～正午までの3時間、開催します。当番医に殺到することを少しでも緩和しようということで、その補完としてやるものです。

さらに年末年始、12月31日（土）～1月3日（火）における休日当番医については、通常期よりも一部数を増やしていただくことで対応する予定です。今後年末年始において発熱外来の体制強化をこのようにしながら努めています。

市民の皆様をお願いします。発熱した場合に備えて、できれば自宅で抗原定性検査キットや解熱鎮痛薬を早めに購入し、自主検査による対応をしていただくということに御協力いただければと思います。

保健所については全数把握の見直しも行っておりますので、発熱外来自体でどうこうということはありません。色んな相談電話などはかかってきているので、かなり忙しくはなっています。

#### 【記者】

マイナンバーカードについて質問させていただきます。現在の申請の状況、全国的に窓口混雑等が発生している自治体も多いと思いますが、高松市について教えてください。

また、市としてもカードの普及促進をされていると思いますが、今後どのように進めていきたいか、お聞かせください。

#### 【市長】

11月末現在で、本市のマイナンバーカードの交付率は52.3%、申請率は、62.3%となっております。国のデジタル田園都市国家構想交付金の申請要件となっております、11月末時点の全国平均の取得率53.9%を上回っており、本市としては、引き続き、マイナンバーカードを健康保険証として利用できる「マイナ保険証」など、カードの利便性について周知広報に取り組んでまい

りたいと思います。

今、国で携帯電話各社と連携して申請窓口の拡大を図るような方策も取られています。これを利用しながら、カードの普及に向けた取組を強化してまいりたいと存じます。

その一方で、本市の受付申請状況ですが、「マイナポイント第2弾」でポイント付与の対象となる申請期限が迫っていたことなどから、本庁舎12階のマイナンバーカード交付会場には、申請に加え、交付されたカードを受け取りに来られる市民の方が急増し、連日、2時間を超える待ち時間が発生している状況でございます。

さらに、12月半ばに入り、更に多くの方がカードの受け取りに来庁され、先日、報道発表させていただきましたとおり、カードの交付処理に必要な国のシステム稼働時間内に、お待ちいただいている方の交付手続を終えることが困難な見通しとなった場合、やむを得ず、定時（午後5時）より早く受付時間を終了させていただくこととしており、皆様には大変ご不便をおかけし、申し訳なく存じているところでございます。

マイナンバーカードの申請期限につきましては、昨日、国から発表がございましたとおり、本年12月末から来年（令和5年）の2月末に延長されたところでございます。マイナポイントの申込期限につきましても、これに合わせまして、来年2月末までカードを申請された方が、円滑にポイントの申込みができるよう延長が検討されているところでありまして、そうなると2月末まででいいということになりますので、慌ててカードを取りに来る必要もないということなので、是非、カードの受け取りについて、慌てずに状況を見てご判断いただきたいと思います。